

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 271人 国語B 271人

② 数学A 271人 数学B 271人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

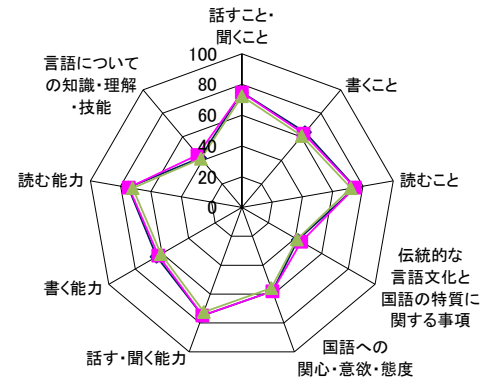
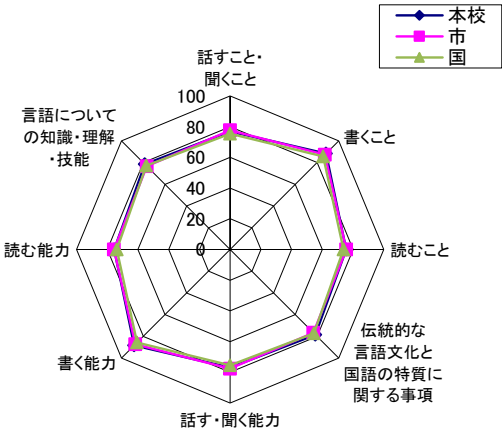
★本年度の国、市と本校の状況

【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.9	77.6	75.4
	書くこと	88.3	87.3	85.7
	読むこと	75.5	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.6	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	76.9	77.6	75.4
	書く能力	88.3	87.3	85.7
	読む能力	75.5	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	78.6	76.6	77.2

【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.9	74.8	72.4
	書くこと	63.9	62.6	60.8
	読むこと	75.0	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	42.1	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	58.1	58.0	55.9
	話す・聞く能力	74.9	74.8	72.4
	書く能力	63.9	62.6	60.8
	読む能力	75.0	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	42.1	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

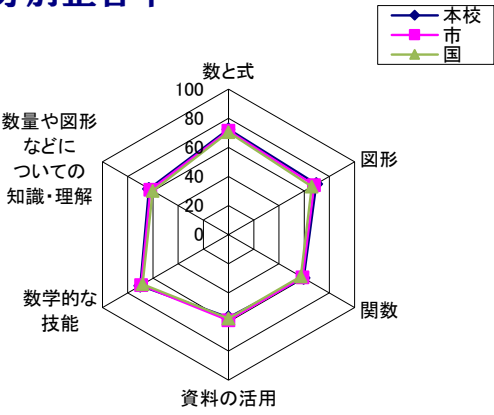
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aでは1. 5ポイント、国語Bでは2. 5ポイント、全国平均を上回っている。特に国語A「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」では2. 1ポイント、国語B「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」では5. 5ポイント高い。 ●全国平均と比べて、国語B「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す」では1. 9ポイント下回っている。	・人前で話すことに抵抗感をなくすために、授業でスピーチなど発表の機会を多く設け、準備した原稿をただ読むだけでなく、相手の反応を踏まえながら、柔軟に工夫した発表ができるよう指導していきたい。 ・話し合い活動を通して、相手の意見を聞き、それを踏まえた上で、自分の意見を伝えるという言語活動を繰り返し行い、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるスキルを身に付けさせたい。
書くこと	○国語Aでは2. 6ポイント、国語Bでは3. 1ポイント、全国平均を上回っている。特に国語A「書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す」では3. 9ポイント、国語B「必要な情報を集めるための見通しをもつ」では7. 6ポイント高い。 ●全国平均と比べて下回っているものはないが、国語A「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」では0. 6ポイント、国語B「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」では0. 7ポイント高いだけに止まっている。	・文章の構成力向上のために、意見と根拠を明確に区別したり、反論を推測したり、接続詞や段落構成を工夫したりするなど、論証の組み立て方のスキルを身に付けさせたい。 ・推敲が確実にできるよう、文章を読み返すときの観点についても指導していきたい。 ・表現力向上のためには多様な文章に触れ、表現の幅を広げることも大切でため、読書習慣を身に付け、自分が好きなジャンル意外の本も読むことで、様々な文章表現の仕方に気付けるよう指導していきたい。
読むこと	○国語Aでは1. 7ポイント、国語Bでは2. 9ポイント、全国平均を上回っている。特に国語A「文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする」では5. 6ポイント、国語B「目的に応じて必要な情報を読み取る」では4. 0ポイント高い。 ●全国平均と比べて、国語A「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」で1. 1ポイント、「文章の要旨を捉える」でも、0. 9ポイント下回っている。	・場面の展開については、文章構成が理解できるよう、ポイントとなる接続詞を教え、時間の経過や場所の変化などに気付けるよう、授業で指導していきたい。 ・人物描写については、登場人物の性格や見た目の様子、人物を取り巻く環境など、人物像が分かる文章を見つけたり、文章の要旨を捉えるために、授業の中で文章を要約する課題を与え、文章中の大事な部分を選び出したりできるよう指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aでは1. 4ポイント、国語Bでは0. 7ポイント、全国平均を上回っている。特に国語A「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」では1. 6ポイント高い。 ●この領域では国語A及びBとも、市平均を2. 0ポイント下回っている。また、全国平均と比べて、国語A「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」で4. 9ポイント、「文脈に即して漢字を正しく書く」では6. 7ポイント下回っており、国語B「比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く」では0. 7ポイント高いだけに止まっている。	・漢字の読み書きは国語の知識の基本になるので、新出漢字のテストを行うなど、学力の定着を目標に指導していきたい。特に漢字を書くことが苦手と感じている生徒も多いため、漢字練習のワークやプリントを活用し、学力の定着を図りたい。 ・慣用句やことわざなど、なじみの薄い語句に関しては、辞書を使って調べることや、本や新聞を読むことで、語彙力を高めていけるよう指導していきたい。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

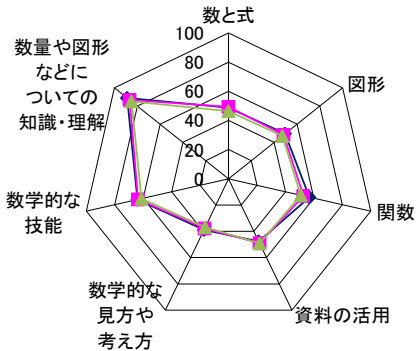
★本年度の国、市と本校の状況
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	72.5	71.4	70.4
	図形	69.6	67.9	66.0
	関数	59.6	58.6	57.4
	資料の活用	56.9	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.0	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	63.1	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	48.7	49.4	46.3
	図形	49.6	48.3	47.1
	関数	56.9	52.7	50.8
	資料の活用	47.7	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	38.8	37.8	36.8
	数学的な技能	64.0	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	88.9	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数学Aでは2.1ポイント、数学Bでは2.4ポイント全国平均を上回っている。特に数学A「整式の加法と減法の計算ができる」では9.0ポイント、数学B「与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる」では7.2ポイント高い。 ●数学Aでは全国平均を下回っている問題が3問あり、特に「等式を目的に応じて変形することができる」で5.9ポイント低い。また、この領域における数学Bでは市平均を0.7ポイント下回っており、特に「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」では全国平均を0.8ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「等式を目的に応じて変形することができる」では、問題演習を通して、繰り返し学習させていきたい。 ・不注意による計算ミスが考えられるので、時間を設定して計算練習を行うなどの工夫をして計算ミスの減少を図りたい。 ・「数量の関係を一元一次方程式で表す」では、式化の問題演習を数多く解かせて、慣れさせていきたい。
図形	○数学Aでは3.6ポイント、数学Bでは2.5ポイント全国平均を上回っている。特に、数学A「多角形の内角の和の求め方を理解している」では11.8ポイント、数学B「事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる」では5.2ポイント高い。 ●数学A「作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している」では2.6ポイント、「扇形の弧の長さを求めることができる」では0.4ポイント、数学B「付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる」では0.6ポイント下回っている。	・考える時間を多くとり、じっくりと考えるような証明の学習を授業の中に意図的に取り入れていきたい。 ・全国平均を下回っていることはないが、記述式の問題の正答率が低いことから、授業の中で意図的に記述式の解答が必要な問題を取り入れていきたい。 ・「扇形の弧の長さを求める問題」は、公式をしっかりと覚えさせた上で数多くの問題演習をさせていきたい。
関数	○数学Aでは2.4ポイント、数学Bでは6.1ポイント全国平均を上回っている。特に、数学A「与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している」では7.3ポイント、数学Bでは「数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる」では8.1ポイント高い。 ●全国平均と比べると、数学A「二元一次方程式を関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味を理解している」では1.7ポイント下回っている。	・グラフ・式・表の関連を押さえた上で、問題演習をしていく必要がある。できるだけ、問題演習の時間を多くとることで、更なる知識の定着を図ってきたい。 ・関数に対する理解が深まるよう、「関数の意味」を具体的な事例を使って説明し、その上で数多くの問題演習をさせていきたい。
資料の活用	○数学A「同様に確からしい」ことの意味を理解している」では9.8ポイント、数学B「資料から必要な情報を適切に読み取ることができる」では2.6ポイント高い。 ●この領域では、数学Aは2.0ポイント、数学Bは1.3ポイント市平均を下回っている。同様に、数学Aでは0.7ポイント、数学Bでは1.4ポイント全国平均を下回っている。特に、数学A「範囲の意味を理解している」で10.5ポイント、数学B「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」で3.9ポイント低い。	・他の領域のように授業で繰り返し学習することが少ないため、定着が図れていない生徒もいるので、日常生活や社会問題を取り上げ、必要な資料を選択整理し、その傾向を捉えて説明し合う学習を取り入れたり、問題演習を数多く取り組んだりすることで理解の定着を図ってきたい。 ・「範囲の意味」に浸透が浅いので、問題演習を数多くさせていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【良好な状況が見られた項目】	
○「自分には、よいところがあると思いますか」についての肯定的回答が、全国平均より15. 1ポイント上回っており、自己肯定感が高い傾向にある。	
○全国平均と比べて、「授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かしていますか」についての肯定的回答は15. 2ポイント、「家で学校の授業の復習をしていますか」についての肯定的回答は18. 1ポイント上回っており、基本的な学習習慣が確立していることが伺える。これは、全校生徒に自主学習ノートを配付して毎日提出させ、学級担任がチェックを行うなど、学校全体としての地道な取組により、家庭での学習習慣が身に付いた成果だと思われる。	
○「新聞を読んでいますか」についての肯定的回答が、全国平均より15. 1ポイント上回っており、学級や授業で新聞記事についての話題を取り上げたりすることで、世の中の事象に対して興味・関心を持つことにつながり、新聞を読む生徒が増えたと思われる。	
○全国平均と比べて、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなど、の学習に取り組んでいますか」についての肯定的回答は20. 4ポイント、「1. 2年生の時に受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」についての肯定的回答は15. 9ポイント上回っている。これは、総合的な学習の時間における社会体験学習や修学旅行のまとめや発表で、生徒主体の活動を増やし、積極的に課題解決学習を取り入れたことや各教科における言語活動の充実の成果だと思われる。これらの取組により、生徒が自ら情報を収集し、積極的に課題解決を行おうとする姿勢が見られる。	
【課題が見られた項目】	
●「家で、学校の授業の予習をしていますか」についての肯定的回答が、全国平均より3. 2ポイント下回ったことから、復習と同様に予習の必要性や仕方を指導していく必要がある。	
●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」についての肯定的回答が、全国平均より4. 9ポイント下回っている。昨年度より3ポイント高くなり、改善されつつあるが、学校では地域の行事について積極的に紹介をしたり、ボランティア活動への参加を呼びかけたりするなど、今後も継続して地域へのボランティアの募集を行ってきたい。	
●全国平均と比べて、「読書は好きですか」についての肯定的回答は2. 1ポイント、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」についての肯定的回答は9. 6ポイント下回っている。特に、平日の1日あたりの読書時間が30分以上の生徒の割合が3. 8ポイント、図書室・図書館等の利用も1週間に1回以上行く割合が3. 4ポイント全国平均を下回っている。読書に関しては、県及び市における調査についても同様に肯定割合が低い状況であることから、朝の読書を継続して取り組んでいるが、読書への興味・関心を高めるとまでは至っていないことが分かる。このことから、感想文や説明文を書くことへの抵抗感が強いと考える。今後は、読書の楽しさを実感させるために、司書教諭や司書と連携を図った図書館利用の推進や本の紹介を伝える啓発活動、家庭での読書の習慣化などに取り組んでいく必要がある。	

宇都宮市立陽東中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
生徒一人一人の学習意欲の向上と言語活動の充実	①学ぶ喜びや達成感が持てる「分かる・できる」授業展開の工夫	①調査教科における「授業の内容はよく分かりますか」の設問に対する肯定的回答は81. 2％であり、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」では84. 3％、「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてください」では88・3％という肯定的回答であったことから、「分かる・できる」と実感できる授業展開に努めていることが、生徒の意欲向上につながっている。
	②学び合いや言語活動の質的な深まり	②発表や話し合い活動に関する全ての設問で8割を超える肯定的回答であり、「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の設問での肯定的回答は77. 7％であったことから、これまで校内研究で取り組んできた言語活動における各教科の取組の成果が現れている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
読書への興味・関心	自主的な読書活動の推進	・読書を通して、読解力や想像力、思考力などを養えるようにする。 ・本を読み深めることで、知的好奇心を求める態度を養うため、新たな発見や知る喜びを味わえるようにする。